

幾何公差の図示方法

●JIS B 0021(1998)より抜粋

記号	公差域の定義	図示例とその解釈
真直度公差	公差値の前に記号φを付記すると、公差域は直径tの円筒によって規制される。	公差を適用する円筒の実際の(再現した)軸線は、直径0.08の円筒公差域の中になければならない。
平面度公差	公差域は、距離tだけ離れた平行二平面によって規制される。	実際の(再現した)表面は、0.08だけ離れた平行二平面の間になければならない。
真円度公差	対象とする横断面において、公差域は同軸の二つの円によって規制される。	円筒及び円すい表面の任意の横断面において、実際の(再現した)半径方向の線は半径距離で0.03だけ離れた共通平面上の同軸の二つの円の間になければならない。
円筒度公差	公差域は、距離tだけ離れた同軸の二つの円筒によって規制される。	実際の(再現した)円筒表面は、半径距離で0.1だけ離れた同軸の二つの円筒の間になければならない。
平行度公差	[データム平面に関連した表面の平行度公差]公差域は、距離tだけ離れ、データム平面に平行な平行二平面によって、規制される。	実際の(再現した)表面は、0.01だけ離れ、データム平面Dに平行な平行二平面の間になければならない。
直角度公差	[データム平面に関連した表面の直角度公差]公差域は、距離tだけ離れ、データムに直角な平行二平面によって規制される。	実際の(再現した)表面は、0.08だけ離れ、データム平面Aに直角な平行二平面の間になければならない。
位置度公差	[点の位置度公差]公差値に記号Sφが付いた場合には、その公差域は直径tの球によって規制される。球形公差域の中心は、データムA、B及びCに関して理論的に正確な寸法によって位置付けられる。	球の実際の(再現した)中心は、直径0.3の球形公差域の中になければならない。その球の中心は、データム平面A、B及びCに関して球の理論的に正確な位置に一致しなければならない。
同軸度公差	公差値に記号φが付けられた場合には、公差域は直径tの円筒によって規制される。円筒公差域の軸線は、データムに一致する。	内側の円筒の実際の(再現した)軸線は、共通データム軸直線A-Bに同軸の直径0.08の円筒公差域の中になければならない。
同心度公差	公差値に記号φが付けられた場合には、公差域は、直径tの円によって規制される。円形公差域の中心は、データム点Aに一致する。	外側の円の実際の(再現した)中心は、データム円Aに同心の直径0.1の円の中になければならない。